

令和2年度 前期学校関係者評価書

南アルプス市立大明小学校

第1回 学校関係者評価委員会

- 1 実施日 令和2年9月4日（金）午後7時00分～午後8時00分
- 2 会場 大明小学校校長室
- 3 参加者 学校関係者評価委員
石田 敏枝（委員長）
杉山由貴子
市川 和男
市川 政子
高野 晃史
山本 幸希
山本 未央
学校職員
穴山 直樹（校長）
内藤 賢（教頭）
米山 隆男（教務主任）

4 学校から提案された内容

- (1) 学校経営について（校長）
- (2) 学校の自己評価について説明
 - ①保護者アンケート（教頭）
 - ②教職員による自己評価（教務主任）
 - ③児童アンケート（教務主任）

5 特に協議された内容の概要

(1) 保護者アンケート結果

①【設問④ 学校施設・設備】

- ・体育館の雨漏りは、雨漏り→修繕要望→修理→劣化を長年繰り返してきた。トップライト（天窗）に原因があり、トップライトを撤去する工事が始まっている。
- ・エアコン設置により、扇風機は壊れたら終わりということになっているため、扇風機の修理・新設はできない。（業者にみてもらったが、今作動しないものはすべて損壊している。）教室内が暑かったのは、感染症対策のために必要以上に窓を開けていたことに原因があり、冷気が換気されエアコンの設定温度を下げてても涼しくないという状況にあった。養護教諭を中心に換気のしかたを検討し、十分に換気かつ室温を涼しく保つことができるようになっている。

②【設問7 学校が楽しい】

- ・肯定的回答が95%以上だが、否定的回答者もいる。毎年定期的実施する「楽しい学校生活を送るためのアンケート（Q-Uテスト）」の結果も参考にしながら、学級担任を中心に連携して対応する。

③【設問9 学習理解】

- ・1学期が約2か月間と、通常の半分の期間しかなかったことが響いている。つめこみにならないように授業時間を優先し、内容を精選したり、順番を入れ替えたりして授業を行っているが、例年のように実態に応じて配當時数より時間を大幅に増やし、より丁寧に行うことは限られてしまう。
- ・プリント等の丸つけについて、算数と漢字は、間違えて覚えてしまうことにつながるので一つ一つに丸つけをする確認を職員全体に行った。
- ・理科の教科書等を学校保管にするのは、理科の授業を担当でない教師が受け持つためか、忘

れ物が非常に多いこと、多くの教科の教科書が厚くなり、重いことによる。家庭学習を充実させたいご家庭もあるので、一律に学校に置かず、持ち帰りたい児童は持ち帰ってもよいことを児童に伝える。

④【設問 13 子どものあいさつ】

- ・例年通りの状況が続いていることがわかる。自由記述欄の内容は、学校でも把握しており、校長を中心に取り組みを行っているが、学校ではあいさつできるが、地域ではできていない様子は想像できる。あいさつは、する側が自分の心を開く行為なので、される側があいさつを返さないと不安になり、「こっちが心を開いているのに、相手は心を開かなかった。」となり、不愉快に感じることに繋がる。目も合わせない、反応もないとなると、不愉快を超えて心配になる。家庭・地域・学校がそれぞれ取り組むのではなく、連携して行う必要がある。PTA活動でのご協力をいただけるとありがたい。

⑤【設問 14 家庭と学校の連絡、意思疎通】

- ・昨年度後半より評価が下がっているのは、新学年で新体制になったのに、感染症対策で保護者が来校できなかつたり、学級担任が家庭訪問できなかつたりしたことで、コミュニケーションが不足したためと考えられる。保護者が教室に入ることによって教室内に人が密集してしまうこと、学級担任が家庭訪問をすることでウイルスを媒介する危険があることをご理解いただきつつ、家庭と保護者の意思疎通、コミュニケーションは欠くことができないものなので、2学期以降、状況を見ながら授業参観の仕方を工夫するなど、保護者来校の機会をつくっていきたい。

(2) 教職員による自己評価

①【設問 4 学級経営・生徒指導】

- ・生徒指導上の問題については、共通理解が図れるように情報交換を常に行っている。また、支援が必要な児童に対してもコーディネーターを中心に情報交換を密にしている結果が表れている。気になる子への対応は担任だけでなく、学校全体によるチームで対応していく必要がある。そのための情報交換の時間は必要であるので、その時間を捻出し全職員が主体的に関われる体制をこれからもつくっていく。

②【6 その他①子どもたちのあいさつ】

- ・今年は玄関でのあいさつ運動ができず、いつものあいさつの取り組みができなかったこともあり、日常のあいさつがまだまだであるという答えが非常に多い。いつでもあいさつを自分から行える子が増えることが望ましい。いつでもどこでも自分から進んで気持ちのよいあいさつができるように全校体制で指導を工夫する。

(3) 児童アンケート結果

①【設問 1 学校は楽しいか】

- ・肯定的な回答が94%で、昨年の2学期の結果とほぼ同じである。理由は、「友達と遊べる・友だちがいる」に関する記述が圧倒的に多く、「勉強が好き」と続いている。
- ・否定的回答も、昨年度とほぼ同じである。理由は、友達関係が多く、「友達に嫌なことをされる」「友達に嫌なことを言われる」となっている。いじめについてもこのアンケートとは別に調査し、各担任が個別に対応にあたった。
- ・学習の基礎・基本を根気強く指導していくこと、わかる授業づくりを行っていくことも大切だが、友達との関係を深められる学級づくり・安心して通える学級づくりに努力していく。

②【設問 2 学校へ行きたくないと思うときがあるか】

- ・「ない」「ほとんどない」と答えた児童が84.1%と昨年度とほぼ同じである。一方、「週1回くらいある」「よくある」と答えた児童は、4年生の割合が27%と高い。否定的回答の理由について低学年では、「疲れているから」「眠いから」「勉強がいやだから」「友達と仲良く遊べないから」であり、高学年では、「いやなことがあるから(悪口)」「疲れているから」「勉強が嫌だから」「休みの次の日だから」となっている。
- ・先生と児童・児童同士の人間関係・クラスの雰囲気づくりなど、学校の力で解決できる問題もある。家庭での健康的な生活「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組み等、家庭と連携を取

りながら、取り組む必要がある。「眠い」「疲れる」などを防ぐ、基本的な生活習慣の確立や食生活の見直し等、引き続き保護者の協力のもと体調を整えていくことが求められる。

③【設問3 学校の勉強がわかるか】

- ・95%の児童が、肯定的に答えている。気になる点は、4年生の「あまりわからない」「わからない」の割合が10%となっていることである。中学年で学習が難しくなる時期なので、より一層丁寧な指導が求められる。
- ・高学年になるにつれ、「わからない」と回答しにくくなっていくことが考えられる。
- ・低学年の学習の上に高学年の学習が展開していくので、低学年からの学力を保証していかななくてはならない。主体的に学習する意欲や学び方を育成していくこと、わかる授業づくりや学習したことの定着、家庭学習の充実を、全職員で意識して実践していきたい。
- ・本校は市より「学びの質を高める授業づくり推進事業」に指定されている。授業づくりについて研修を重ね、子どもが主体への授業へと転換をすべく取り組んでいる。

④【設問4 困ったときに相談できる人がいるか】

- ・90%の児童が、「いる」と回答している。相談相手は、1年生は、「親(母親が多い)」という記述が多く、次に「先生」「友達」の順に多い。2年生から「友達」という記述が多くなり、「親」「先生」の順番になっていく。中学年・高学年になってもその傾向が続いている。
- ・「いない」と答えた児童については、引き続き担任の方で気に留めて観察や声かけをしていき、児童の心の居場所をつくっていく必要がある。また、昨年度から設置されたスクールカウンセラー活用も考えていく。

⑤【6 進んであいさつができたか】

- ・肯定的評価が81.4%と若干減っている。肯定的評価の割合が高いのは1・6年生(90%超)である。
- ・今学期は、コロナのため、児童会あいさつ運動、クラスのあいさつの取組が通常通りにできない状況である。そのためか、学校でも「自分から進んで」・「大きな声で」あいさつができる児童は昨年度より少ない。また、地域でもできていない現状がある。
- ・学校全体で今の状況を改善していき、家庭とも連携しながらさらなる取り組みを行っていく必要があると考える。

6 協議の場でも出された意見等

(1) 児童のあいさつ、通学路の安全確保について

- ・学区の広場や神社に不審者が出没していて不安だが、不審者対応は、学校だけでなくJAや郵便局など他の機関と連携して行ってみてはどうか。取り組みを新聞に掲載してもらったり、宣伝したりすることで、不審者への抑止力となる。本校だけでというわけにはいかないの、校長会等で協議してはどうか。
- ・大井保育所跡地のごみステーションは、月・木曜日がごみ出しの日で車が行き交い、非常に危ない。自分も気をつけながら児童と一緒に歩き、送っている。甲西支所南の交差点も信号がないので危ないが、見守り隊がいる日は安心する。
- ・相手があいさつするまで粘り強くしつこく毎日あいさつをすることで、子どもたちがあいさつできるようになる。
- ・登校中、1年生があいさつをするようになった。毎日の取り組みが功を奏している。

(2) 学校の施設・設備について

- ・教室数が不足する件について、どんな要素があるか。
分譲地が増えて新規に家が建っているので、しばらくは児童数があまり減少しないこと、本校のバリアフリー施設により、特別支援学級規模が今後も現状で続くこと及び特別支援学級は人数が少なくても教育活動上1教室が必要なこと、県の施策で少人数学級制度が進むことから、現状の教室数では様々な不都合が生じる。
- ・2階のパソコン室と会議室を来年度から活用していくということだが、昔使用していた頃、東西の日差しが差し込みとても辛かったと聞いている。遮光カーテンやエアコンの設置が必要になる。

(3) 児童の学習理解について

- ・授業日数が少ないためか、授業の進度が速く勉強についていけない子どもが多くいる。家庭でも保護者が忙しくてみてあげられない。このままでは学校が嫌になるかもしれないので、フリータイムや放課後にみてもらうことはできないか。
- ・コロナ禍対策の教職員が来られるように要請はしている。
- ・コロナによる臨時休業で、学校へ行く意義がよくわかった。2か月間の休業で、子どもと接する機会が増え、親子関係がよくなった。
- ・休業で大変な家庭もある。例えば、母子家庭は市からの支援があるが、そうでない家庭で支援がなく困っている家庭もある。

(4) 新型コロナウイルス感染症対策にかかわって

- ・学校では感染者が今のところ出ていないが、感染場所は職場や家庭が多い。引き続き感染対策にがんばってほしい。
- ・修学旅行や林間学校、運動会、陸上記録会等、感染症対策を行ったうえで実施する。
- ・運動会は、甲西中のグラウンドも利用できるので来校の機会として観覧人数に制限は設けず実施する。しかし、校庭トラック周りの観覧席は密集するので常駐できない対策をとる。
- ・コロナ禍で保護者が来校できないので、ホームページで学校の様子を発信している。
- ・運動会の応援団長を目指してがんばってきた児童が、運動会で応援がなくなってしまい落胆していた。子どもたちが楽しみにしていた活動がたくさんなくなり、かわいそうである。

貴重な御意見、ありがとうございました。

評価書作成責任者

関係者評価委員会委員長

石田敏枝